



「周りに振り回されず自分に自信をもつためには、個人的に振り返るだけではなく『語る』という経験の蓄積が欠かせないと思います。」

大城 匡平 さん（理科教育専修初等教育履修分野2回生）

大城さんは、ある授業で模擬授業を行った際に、自分のスマートフォンを友人に渡して自分の姿を撮影してもらい、動画を見直して感じたことを動画と共にポートフォリオシステムにアップロードしました。アップロードする際には、自身で動画を mpg4 形式に圧縮しました。

大城さん自身は、この活動をどのように捉えていたのでしょうか。

Q 模擬授業をしている自分の姿を動画でふりかえってみて、いかがでしたか。

模擬授業を行う前は不安でしたし、終えた後もこれでいいのかどうか分かりませんでした。動画を見ると「案外きちんと話すことができている！」ということを確認することができ、自信になりました。

Q 模擬授業について他者から指摘を受けた場合と、今回のように動画で確認した場合とでは、何か違いがあったと思いますか。

やはり自分で自身の姿を見て気づく方がわかりやすいと思います。他の方からフィードバックをいただいた場合は、そのフィードバックが意味することを確認することができます。たとえば、僕は模擬授業を終えた後、ある人から「児童（役）全体をみることができていたよ。」とフィードバックしていただいたのですが、それを聞いたときは「ほんとうかなあ？」と実感がわきませんでした。しかし、その言葉を意識して自分の姿を動画で改めてみてみると、確かにその通りだと納得することができました。

Q 他の人からフィードバックを受けて動画をみる場合と、受けずに動画をみる場合とでは、なんらかの違いがあったと思いますか？

もし、他の人からフィードバックを受けていない状態で動画を見たとしたら、まず自分が日頃心がけていることを確認すると思います。たとえば自分がイメージしていた通りにできていたかとか、大きな声で話せていたかとか、早口になっていないかどうかなどです。

Q 過去の経験や他の授業等でこのような機会がありましたか。今回との違いはどのような点にありましたか。

中学生時代や高校生時代に生徒会長を担当していたので、そのときにビデオで記録をとっていたことがありました。今回はそのときとは異なり、「評価される」という意識がありました。自分が話したいように話すのではなく、子どもに対する話し方として適切かどうかが問われますので、このあたりをとくに意識しました。

Q 今回の経験を、将来学校現場でどのように活かしたいと考えていますか。

たとえば児童の発表の記録を残して、その子がどのように成長したのかを確認できるようにしたいです。さらに、その成長を子ども自身が確認できるようにすることによって、自信をもって中学校へ進学できるようにしてあげたいです。他人と比べて「自分はできない」と思うのではなく、周りにとらわれずに自信をもてるようにしてあげたいです。

Q 学校教育は目標を定めて行っていますが、その中で子どもが「周りにとらわれずに自分に自信をもつ」ためにどんなことを大切にしていきたいですか。

教育には型があり、毎時間の授業でも一定の結論がありますが、当然それらにはまらない考えやアイデアが児童から提示されることもあると思います。そのようなときは、できるだけ発言の背景を聞いて考えを受け止めることも大事にしたいです。もし考えがぶつかってしまったときでも、日頃の信頼関係が築けていたら深刻な形でこじれることはないと思います。

Q 信頼関係を築くことができる人とそうでない人との違いはどこにあると思いますか。

相手のことを思うことができるかどうかだと思います。視点を相手の立場に合わせて考えることができると、なぜそのようなことを考えるのかある程度納得できるようになります。そのような意味で、今回のように視点をずらす経験の蓄積は大事だと思います。

Q 今後どのように課題に取り組むとよいと思いますか？

今回は「課題」が提示されて、それに対する考えや成果物を投稿していたため、自分の成果からしか考えることができませんでしたが、今後はさまざまな人と成果を交流することができるようにすれば、相手がどのような気持ちで学んだかを想像することができるようになると思います。また、直接聞き合うことも大事だと思います。いずれにせよ、投稿したことを見るだけでなく、それについて「語る」しかけが必要なのだと思います。

大城さんは、子どもが自信をもつためには、ぶつかっても大丈夫だと思えるような信頼関係の構築が重要だと指摘します。信頼関係を構築するにあたっては、さまざまな視点を獲得するための経験の蓄積が重要なので、今回のような動画による振り返りも、そのための経験のうちの一つとなり得ると評価されていました。

ありがとうございました。

授業担当者（森本弘一先生「初等教科教育法『生活』」）のコメント

今回、はじめて、授業で学生さん自身に振り返りを行っていただきました。これまで、学生さんの模擬授業を記録していましたが、ファイルが大きいため、学生さんに送ることができず、学生さんの模擬授業は、私の授業の振り返りとなっていました。学内ポートフォリオが構築されたおかげで、本来の学生さん自身の振り返りができてとてもよかったですと思っています。

私が、模擬授業を行っている学生さんに「声が小さいよ。児童役の学生さんの顔を見ていないよ。」と何度も指摘しても、その場限りですし、実感も湧かないかもしれませんが、自分で見れば、私の指摘に納得できるのではないのでしょうか。大城匡平さんの振り返りにも同様なことが述べられていました。

今後、学内ポートフォリオの利用がいろいろな授業で使われるようになれば、さらに学生さんの力量形成に役に立つと思います。